

変化への挑戦

(創造型組織に向けて)

(有)関西中小企業研究所
代表取締役 中上義春
(中小企業診断士)

変化拒否症候群

●理由

- 今のままで、業績もどうにか確保できている。
- 新しいことに挑戦するとリスクもある。
- 新しいことを吸収するのは大変だ。
- 現状の業務で手一杯、新しいことをする余裕はない。

変化しない場合には

- 周囲は変化している。
 - ⇒ 変化しなければ、経営の危険性が大きくなる。
- 景気影響で無い、業績の向上。
 - ⇒ 期待できない、給与源泉の拡大は無い。
- 事態の変化
 - ⇒ 判りにくい、判った時は手遅れ。大ナタ

変化のための準備

- 経営理念、目的の確認
- 変化を考える際の基。

- 現状の確認
- 自社の良い点、悪い点の明確化

- 組織の変化への適応力の向上
- 柔軟性と積極性のある組織とは

変化は簡単か？

- 常識の壁
- ・発想者の常識
- ・周囲の常識



思考阻害要因

- 無知の壁
- ・技術的無知
- ・市場的無知

- 焦点の不一致
- ・個人的不一致
- ・組織的不一致



効率阻害要因

変化の方向と項目は

- 変化の方向の明確化

- 事業展開指針の明確化

- 変化の項目の明確化

- 参加者がその項目を最重要と認めている。
- 準備すべき内容は。
- 準備すべき項目の優先順位は。
- 各自の役割が明確化し、集中的に。

創造的組織を作る。

- 集団発想技法を考える。
- 代表的な発想技法BS法、KJ法等

- 創造的組織構造・運営法を考える。
- 創造的リーダーとは
- コーチング技法とは
- 権限の委譲と明確化
- 日々革新するには

変化推進の構造化

- 問題の各レベル展開を図る。
- BSC手法により各レベル問題の整合性を確保。

- 解決策の各レベル展開を図る。
- BSC手法により各レベル解決策の整合性を確保。

- 評価法の確立
- 評価指標と目標値の明確化



終



引き続き
「現代社会のキーワード」を
ご覧下さい。

現代社会のキーワード

(有)関西中小企業研究所

代表取締役 中上義春

(中小企業診断士)

第一位 キーワード グローバルゼーション

グローバルゼーションとは

- 1) ジャングル社会
- 2) 巨大資本の競争
- 3) 価値観の多様化
- 4) 独創性の尊重(欧米)
- 5) スピードの重視(米)

チャールズ・ダーウインの 進化論の出番

- 1) 自然界の生物は多種・多様であってこそ共存共栄し得るのであり、単一あるいは同種・少数種の寡占では結局はその種族の維持さえも困難になる。
- 2) 生き残ることができる生物種は、最も強いものでも、もっとも賢いものでもなく、最も環境の変化に敏感で、柔軟に適応したものである。

必要な能力の変化

安定維持
の能力

変化へ
の対応能力

革新能力
(創造力)

利益源泉の変化

ハード
(設備、資本)

ソフト
(知識)

人間のみ
の持つ独創性

従来型企業組織像

命令と統制

⇒権限のTOPへの集中

⇒多段階層構造

時代背景

激しい技術革新
スピード重視

問題

速い市場の変化

⇒経験則での予測が難しい

社内調整、意思決定の遅延

⇒機会損失

求められる企業組織像

課題

変化のスピードに追
随できる組織

改善策 (権限委譲)

- 1) フラット組織化
- 2) チーム組織化

移行の際の問題

- 1) 新しいプロセスや価値観への従業員の調整・順応能力の向上。
- 2) 各自の持っている能力や可能性の発揮の最大化

- 1) 各自の学習、能力の向上
- 2) 各自の能力発揮の最大化 ⇒ 管理層による支援

問題解決手法

人材開発重視の手法

ビジネスコーチング

- 1) 管理手法の変革
個人能力の発揮を促進する
管理手法
- 2) パーソナルコーチング
個人能力の向上を目指した
コーチング

BSC

(バランス・スコア・カード)

財務偏重の企業運営からの脱却

- 1) 人材の育成、変化への
対応能力向上を基盤とした
- 2) 業務プロセスの革新
- 3) それに伴う顧客満足の上昇
- 4) その結果としての財務の高業績化



終